

第6次広尾町まちづくり推進総合計画 後期見直し（案）に対するまちづくり意見公募に寄せられた意見に対する広尾町の考え方

令和7年10月7日

No.	意見	該当箇所	意見に対する町の考え方	見直し案の修正
1	町外の方々にとって、広尾町は終の住みかとして魅力的です。 「終活のまち」を標榜することで、首都圏から健康で可処分所得の高いアクティブシニア層の移住や二拠点生活の促進につながります。 子育て世代はどこでも歓迎されますが、将来的には町を離れる可能性もあります。一方で、シニア世代は安定的に存在しており、好循環を生み出すことで、人口増は微々たるものであっても、町の新陳代謝が促され、活力が生まれるのではないのでしょうか。	5-2-② 移住・定住・交流・関係人口の創出	町の移住施策については、主に子育て世代や現役世代をターゲットに受入れを進める方針で進めているところですが、移住体験住宅の利用者も高齢者が多く、完全移住ではなく二拠点生活を検討している声が多い状況です。 今後も魅力ある子育てや教育施策などを推進し、現役世代の移住を呼び込んでいく一方、アクティブな高齢者層の移住についても希望者のニーズを把握し、受入れを進めていきたいと思います。【企画課】	なし
2	美味しい食事は幸福感に直結しますが、鮮魚を扱う小売店が閉店するなど、魚を売りにする町として大きな課題です。そこで、生鮮三品（鮮魚・精肉・青果）を各組合が直売所形式で出店し、観光拠点化を図ることを提案いたします。スーパーフクハラの二階を活用し、サンタランドと整備中の多目的公園をつなげることで、人の回遊を促進し、コンパクトシティ化にも寄与するものと考えます。	1-2-② 観光・サンタランドの振興	本町における「食」は、観光資源であると同時に住民生活を支える重要な要素であり、特に鮮魚をはじめとする生鮮品の安定供給と販売拠点の維持は大きな課題と認識しています。直売所形式の出店を通じた地域食材の販売や観光拠点化のご提案は、地域経済の循環や観光振興の観点からも有効なアイデアと考えます。直売所の設置や運営にあたっては、各産業団体との協議、持続可能な運営体制の確保が重要であるため、今後のまちづくり計画の推進にあたり、ご提案を参考にしつつ、関係機関との協議や検討を行っていきます。 【水産商工観光課】	なし
3	「衣食住」に加え、「医食住」が終活世代にとっての生活基盤となる可能性があります。町立病院において、特定健診の受診率向上を目指す際には、国保以外の方も受診できるようにすることをご検討いただければと思います。例えば、協会けんぽ加入者が健診を受けられる実施病院は、現状では帯広や浦河に限られております。広尾町立病院が実施病院となれば、大樹町やえりも町など南十勝全域からの受診者も見込めるのではないのでしょうか。	2-3-① 健康づくりの推進	広尾町国保病院において、協会けんぽ加入者の健診を実施するには、実施機関の選定基準である「待合室が健診部門と一般診療部門が、壁やパーテーション等により物理的に分離されている、または時間帯の調整などの適切な方法により区分されていること」の条件を満たす必要があります。現在、待合室の改修は難しく、また、専門外来対応による外来診療との時間帯調整等、実施対応が難しい状況であり、協会けんぽでの健診は実施できておりません。 今後につきましては、広尾町国保病院第3期中期計画の策定の中で、国保以外の方も健診を受けられる方策を検討してまいります。 【健康管理センター】	なし